秋高同窓会だより

題字は塩田会長

発行者
秋田県立
秋田高等学校同窓会
秋田市手形字中台一番地
TEL 0188(32)9553
印刷所
秋田オフセット
印刷株式会社

平成四年度通常総会

平成四年度の通常総会は、八月二十三日(日)アキタニューグランドホテルにおいて、一二〇名の多数の出席を得て開催され、平成四年度の事業計画と収支予算、創立百二十周年記念事業委員会からの報告等、すべて全会一致で承認された。その後、工藤進英氏による講演が行われ、好評を博した。

同窓会決算・予算

	平成3年度決算額	平成4年度予算額
〈収入の部〉		
入会金	3,342,400	3,326,400
年次会費	1,710,000	1,350,000
役員会費	2,035,000	2,000,000
協賛広告収入	610,000	630,000
基本運用収入	789,892	600,000
寄付金	50,000	10,000
雑収入	275,407	200,000
繰越金	1,120,815	1,944,798
合計	9,933,514	10,061,198
〈支出の部〉		
事務費	1,378,149	1,620,000
会議費	1,727,808	2,200,000
事業費	2,701,795	3,500,000
基金	2,000,000	2,000,000
雑費	165,964	270,000
予備費	15,000	471,198
合計	7,988,716	10,061,198
繰越額	1,944,798	

今年の通常総会は伊藤茂樹氏（昭42卒）の司会で、始まった。当番年次は昭和十二、三年から五十二、三年の十年次で、代表して、沢石謙氏（12卒）が開会の挨拶をされ、「かつてない多数の出席を感謝するとともに、決算予算審議並びに来年の百二十周年に向けて、寛容の秋高精神と活発な意見を出し合って意義ある総会とし、輝かしい明年の記念すべき年を迎えたい。」と述べられた。

校歌斉唱、物故会員への黙禱に続いて、塩田雄次会長（昭5卒）が「暑い中遠方からも出席され、盛大な総会になったことを謝す。支部長会議を総会前に開催し、貴重な意見の交換ができた。同窓会の活動は各支部の援助が非常に大事である。支部の現状あるいは要望等を取り上げて同窓会の活発化の一助としたい。例年にない多数の出席は、年次制の定着、しかもダブル年次、二年にわたって幹事をお願いした結果と思う。同窓会活動も総会・理事会等の集まりのよしあしによってだけ成果を判断するのはよくないが、今後もできるだけ誘い合って出席してほしい。議事とともに懇親も大いに深めたい。」と挨拶された。

次に、室田弘校長（昭26卒）が、「母校への日頃の物心両面にわたる多大なご支援に感謝申し上げる。来年の百二十周年に向けての諸企画・諸事業が実行委員会を中心に進められていることは大変有り難く、学校でも委員会組織に同窓の職員を配置しながら鋭意準備を進めている。来年の九月一日の式典会場は県民会館を確保し、校史の資料収集も始めており、他の委員会についても、時をみてすぐに取りかかる体制を整えている。同窓会の各委員会の方々と十分連絡を取り合って進めてゆきたい。学校は一昨日から授業が再開され、学級対抗終了後九月から進学に向けて全力を出させる段階になっている。現在生徒は千三百九十二名で、内女子が四百九十七名、三十五%程度である。年々女子がふえていたが、今年は二十名ほど減少した。生徒の九十九%が進学希望で、本年はここ十年間では二番目の成績であった。合格しても進学しない者もおり、実質的には六十六%の進学率となった。部活動では、今年のインターハイに六種目出場した。しかし、全県優勝がテニス男子団体のみで、他の六種目は準優勝に終わり、今一歩で、秋高生は意外な脆さがあるのではないかとの感を抱いた。原因を見きわめて、来年度に向けて強化したい。野球についても節目の百二十周年に向けて頑張らせたい。現在学校の課題は、九月からの月一回の土曜休業による、学校の週五日制である。学力の水準を下げないことが前提なので、進学校である本校はどのように対応したらよいか大きな課題である。今一つは平成六年度から実施の学習指導要領の改訂がある。スムースに移行できるように時間をかけて検討したい。」と挨拶された。

各支部長紹介のあと、塩田会長を議長に、平成三年度会務・事業報告がなされ、当初の計画通り実行された旨が伊藤守一事務局長（昭20卒）より報告された。各常置委員会報告では、企画委から、当番年次の組織強化のために、五年に一回の二年次制にしたこと、平成五年（百二十周年）は特別に三年次当番制にしたこと、役員会費と年次の会費に頼っている現状について、平成六年を目途に規約改正も含め抜本的改正を行いたい旨の話があった。名簿委からは、来年名簿を発行する予定で作業を進めていること、広報委からは、百二十周年記念特集号を今年と来年で第七号まで発行すること、また、財政委から、決算については年次強化費をほとんど使わなかったこと、役員、年次会費がそれぞれの年次で定数がないのでばらつきがあり、整合性に欠けるので、企画委とともに検討すること、寄付の募金状況が現在二千八百万円ほどであり、よりいっそうご協力をお願いしたい旨の報告があった。

議事に入り、平成三年度収支決算、一般会計、基金会計、名簿会計の説明、監査報告があり、原案通り承認された。

平成四年度の事業は例年通りであるが、学校林の整備と昭和四十四年から五十八年までの若年次の同期会を強化したいとの説明があった。予算では支部関係などをふやしたことなどの提案があった。原案通り承認。

創立百二十周年記念事業実行委員会関係では、施設委から、校史資料館の建設について、県体的計画、建設場所、予算等の説明、行事委から、招待行事の種目選定、生徒の研修派遣先の選定、祝賀会の計画の報告、校史委からは「秋高二世紀二十年史」編集方針等の説明報告があり了承された。

工藤進英氏講演「幻の大腸癌」

国内外で活躍され、現在最も脚光を浴びつつある大腸癌研究の権威である秋田赤十字病院第二外科部長の工藤進英氏（昭41卒）が「幻の大腸癌」と題して講演された。以下は要旨。

大腸癌はポリープに起因すると一般に信じられているが、胃癌・食道癌は全て陥凹型の早期癌から起こる。なぜ大腸癌のみ、ポリープから癌になるのかの、漠然とした疑問があった。しかし実際の症例としては全く世の中に出てこなかったので、気づくことがなかったが、内視鏡で腸の中をくまなく見てみると、非常に小さな段階でポリープ状を呈さない引っ込んだ大腸癌が結構見つかる。二十一世紀には大腸癌が欧米並に、死亡率のトップになると、予想されている。従来日本人に少なかった大腸癌がふえてきたのは、三大栄養素の内、脂肪の摂取量が非常にふえたことの他に遺伝的付加や環境因子などもあるが、脂肪摂取量の増加と、大腸癌の死亡率とのつながりはあると思われる。大腸の中でも直腸が一番癌を起こしやすい場所である。従来手術即人工肛門であったが、現在は断端をつなぎ合わせる方法ができるようになった。

アメリカンドリームを実現させた、内視鏡の世界的権威日本人医師・ドクターシンヤのもとに、ポリープを呈さない早期大腸癌の話を聞きたいと思ってでかけたが、最初からの陥凹型癌は全く見たことがないので、自分で証明しなくてはならないと思って帰ってきた。

予防するためには、一般的には植物繊維を多く摂取し、運動して腸をよく動かすことが大事である。私は、各地で内視鏡のデモンストレーションをし、学界でも発表し次第に陥凹型大腸癌を信じてもらいつつあるが、最初は「幻の癌」といわれていた。症例を出すにつれて、秋田の風土病とか、工藤病などと揶揄されたこともあった。証拠をきちっと出して学会で言っていかないと、学問なので人は信用しない。早期大腸癌の内視鏡手順は、陥凹型の色の違うものを見つけることだと主張してきた。現在はそれが定着してきた。ある程度理論を正しく覚えて、同じことをくり返していくと必ずうまくなる。

拡大内視鏡が私の夢であり、一瞬のうちに拡大像ができれば、組織を見ているのと同じになる。診断もすぐできることになる。秋田赤十字病院の健康増進センターでの人間ドッグの大腸ファイバースコープで発見した大腸癌は九十一例あった。ほとんどが早期癌で、手術しないで直る例が九割以上である。内視鏡だけでほとんど直る陥凹型の癌は悪性の場合が多いので、声を大にして、これが「幻の大腸癌」でないことを呼びかけていきたい。

天上天下

▼十一月初め鹿児島市へ行き噴煙をあげる桜島を見た。美しく雄大な姿に感動したが、夜の降灰で白い車が黒く変っているので驚いてしまった。ニュースなどで桜島の噴煙による被害については聞きおよんでいたが、毎日となると深刻な問題だ。

▼秋田は雪が降る。屋根の雪おろし、道路の除排雪など多額の費用がかかる雪国に住む人にとっては毎年のことながら大変なことの一つだ。しかし、冬の秋田は小正月行事などを見ると華やいだ気分になる。雪は春の訪れとともに姿を消して行く。

▼鹿児島の人は雪は融けるからまだよいと云う。桜島の降灰は毎日ではないが、融けることがないのでその処理は大変だ。観光客にはすばらしい眺望も、地元の人にとっては大きな問題としてのしかかってくることがあるのだ。

▼環境に対する関心が高まっている。公文子ども研究所の調査によると、子どもたちは、大人以上に環境問題に高い関心を示している。アンケートに答えた小学生の九三パーセント、中学生は全員が、地球環境は悪化していることを認識している。次代を担う子どもたちだけにより切実に感じているのだ。

▼外で遊ぶ子どもたちは、工場の煙や車の排気ガスなどによる空気の汚れ、川や湖、海の変化などをしっかりと観察しているのだ。

▼子どもたちの環境問題への取り組みが、特殊な素材を使い廃棄しても無公害と云うボールペンなどの生産を促したのかも……。大人も、もっと身近なことに目をむけたい。

叙勲・受章に寄せて

桜谷吾郎氏

叙勲の内示があったのは、九月三十日であった。全く思いがけないことであったので、一瞬どう返事をしてよいものやらとまどう。ちらっと頭をかすめたのは、「人間に等級をつける勲章は好まない」と受勲を固辞した元日銀総裁の前川春雄さんの話しである。私もこの考えには賛成なのであるが、さすがにお断りする勇気もなく、頂だいいたしますと答えてしまった。

考えてみると、私は約六年民間会社に籍を置きながら、召集されて軍隊で負傷、戦後復員してこれからどうすべきか思い悩んでいる時、丁度学制改革で新制中学が発足、先生でもやろうかと、適格審査をうけて受検、幸い数学教師として新制中学に採用された。ここで約半年お世話になり、旧制秋田中学に移ったのが高校教師としての駆けだしであった。

以来三十二年間、ただ与えられたポストで一生懸命やって来ただけで、自分で考えても功績というべきものは思い当らない。にも拘らずこの度教育功労ということで受章したことは、正直言って恥かしい気持である。

文部大臣からの正式通知は、二十一日にあった。驚いたのは同時に到着した業者からの記念品カタログの分厚い見本である。それも一社や二社ではない。途端に、受章後のあれこれを考えて頭が痛くなってしまった。

十一月三日、新聞に発表になってから、多くの方々からお祝詞を頂き、この方々のご指導、ご援助があったればこそと、感謝の念とともに、幸福感に浸ったところである。

十七日に、東京国立劇場で伝達式があり、その後皇居に参内、「春秋の間」に於て陛下に拝謁、お言葉をいただいた。

吉井忠亮氏

十一月三日・叙勲発表の日、多くのかたがたから、御祝意をいただきましたが、そのなかにかつて叙勲・受章された大先輩からお電話をいただきました。

「おめでとう……これは奥さんのおかげだよ……」といわれました。

この種の栄誉の式には、必ずといって良いほど夫婦ともにご招待をうけますことは、まさにこの事と思い、今更ながら感謝しております。初めから申しわけありません。

初めて教職についたのが昭和二十一年でこの年がまた結婚の年でもありました。

湯沢高女・秋田高女・秋田高と勤務いたしましたが…各校に所謂大校長がおられ、ご指導をうけました。小野兼次郎・佐々木眞綱・武藤幾満太・中川秀松・高橋一郎・村岡一郎の各先生でした。高体連理事長・教育庁保健体育課長・体協理事長も経験させてもらいました。

秋田北高校長に就任いたしました時、ずらり並んだ歴代校長のお写真を拝見し「自分のような者で良いのか」と身のすくむ思いがいたしましたが、あの時の感慨は、先般十一月十七日国立劇場で勲記の伝達をうけ、勲章を用して、皇居の拝謁の「春秋の間」に入った時も同じでした。

五十年に文部大臣教育功労者表彰をうけ、また、六十一年秋藍綬褒章を受けました時の拝謁の時も同じでした。

勲章の裏側に、勲功旌章（くんこうせいしょう）とされていますが、これは「功績をあきらかにあらわすしるし」と解説されています。それで「勲章」というのだなと納得しました。

しかし、これは多くのかたがたの御教示と御支援によるものと思いますし、これまで育ててくれた母校にも心から感謝いたしております。有難うございました。

第二回募金委員会

第二回募金委員は、十一月十三日午後六時より、年次代表の募金委員等約五十名の出席者で、秋田ターミナルホテルで開催された。

はじめに、塩田実行委員長（兼募金委員長）より、各募金委員のご努力とご苦労に対する感謝のことばがあり、しかし、今日現在の募金状況では、必ずしも楽観を許さないものがあり、事業遂行のためには、是非募金目標の達成が必要である。皆さんにご難儀をかけますが、一層のご協力をお願いしたいと挨拶された。

次いで、事務局より実行委員会の会務ならびに会計報告と、九月三十日現在の募金状況を年次別一覧表により報告された。

それによると、九月末で年次目標額を達成しているのは四年次で、全体としては三千三百万円（30％の納入率）が事務局に納入されている。これに年次事務局でまとめているものを加えても四千万円弱と思われると報告された。

このような状況であるので、今後十二月までに納入率を高めるよう努力したいと述べられた。

続いて、小玉財政委員長を議長に協議に入り、今後の募金の進め方について話し合った。

まず、寄付未納者に対する再要請について協議したが、次のとおり決定した。

文案は事務局で作り、払込用紙と共に事務局で印刷する。発送は、先に第一次依頼を事務局で発送したもの（昭4年以前と昭52年以降）は、再要請も事務局で発送する。一次依頼を各年次で行ったもの（昭5年～昭51年）は、各年次の募金委員と事務局とが協議して行うこととした。また、発送は年次の状況にもよるが、十二月中に発送することを申し合わせた。

その他、寄付金の免税認可がでた場合、金額指定をいくらにするかとの質問があったが、免税認可書がきていないことと、現在の納入者数が少ないので、後日検討することにした。

最後にみんなで、今後の努力を約束して散会した。

住所確認の不審電話にご注意を

最近、同窓会事務局の名称を使って、（時には同期生と称して）会員の父兄に電話をかけ、来年の名簿発行のためと言って、会員の住所・勤務先の確認を行っているものです。

同窓会としましては、そのような事は行っていませんし、同期生の場合は、名簿委員か役員以外の方は行わないはずですので、電話照会のあった時には、慎重な対処をお願いします。

なお、この確認後は物品の販売に利用されているようですのでご注意願います。

百二十周年の寄付金免税措置認められる

本年二月より開始した、百二十周年記念事業資金の寄付金について、先に、秋田南税務署を通して仙台国税局長宛に、この寄付金に対する免税措置の許可申請を提出していましたが、十一月二十日付にて認可されました。

これにもとづいて、実行委員会では総務委員会に諮りましたが、財政委員会に一任ということになり、財政委員会で協議しました結果、寄付金三万円以上と決定いたしました。

従って、この寄付金に対して三万円以上の額を寄付された方は、所得税法および法人税の規定により、税の基礎控除の特典がうけられます。

控除対象額は、例えば寄付金五万円のときは、五万円引く一万円＝四万円について、また寄付金十万円のときは十万円引く一万円＝九万円が、その対象額となります。

また、法人寄付については、全額が必要経費として引き落とすことができます。

なお、三万円以上をご寄付の方には、各個人宛に、「認可済」を明記した領収書を送付いたします。

（実行委員会事務局）

仙台国税局からの通達

法　第194号
所審理第　68号
平成4年11月20日

秋田県立秋田高等学校秋高創立
百二十周年記念事業実行委員会
委員長　塩田雄次殿

仙台国税局長
藤村英樹

秋田県立秋田高等学校秋高創立百二十周年記念事業実行委員会が、当該高等学校の校史資料館を建設するために募集する寄付金の取扱いについて
（平成4年7月16日付照会に対する回答）

標題のことについては、下記のとおりですから御了承ください。

記

御照会の寄付金は、法人税法第37条第3項第1号及び所得税法第78条第2項第1号に規定する国又は地方公共団体に対する寄付金に該当するものと認められます。

したがって、寄付を行う者が法人である場合、申告書にその損金算入に関する申告の記載があるときは、当該法人の各事業年度の所得の金額の計算上損金に算入されることになります。

また、寄付を行う者が個人である場合、確定申告書に寄付金控除額の控除に関する記載があり、かつ、寄付金を受領した者のその寄付金を受領した旨及びその額を証する書類の添付があるときは、所得税法第78条の定めるところにより、寄付金控除が受けられることになります。

なお、法人の代表者等が個人として拠出すべきであると認められる寄付金を法人の寄付金として処理された場合には、その金額は法人の支出した寄付金ではなく、その代表者等に対する給与と認められます。したがって、この場合には、法人については、法人税法第37条第3項第1号に規定する寄付金として取り扱われないこととなりますが、その代表者等については、所得税法第78条第2項第1号に規定する寄付金として取り扱われますから申し添えます。

慶祝

（判明分・敬称略）

黄綬褒章　斉藤昭一郎S20
勲三等瑞宝章　阿部新S12
勲四等旭日小綬章　大野養太郎S10
勲四等瑞宝章　桜谷吾朗S12
吉井忠亮S13
勲五等双光旭日章　宮崎金一S13

哀悼

（判明分・敬称略）

菊地鶴松（S14）五城目町4・5
岩永秀昭（S29）秋田市4・5
八重樫宏一（S20）鹿角市4・5
木内久巳（S15）岩城町4・6
畑沢實（S17）五城目町4・7
大野耕作（S23）秋田市4・7
沢井敬五郎（S16）秋田市4・7
斎藤光喜（S18）大曲市4・7
鳴海英作（S19）秋田市4・8
藤井達次（T10）秋田市4・8
桐澤春雄（S7）秋田市4・8
鈴木直治（S3）金沢市4・9
石井貞（S25）男鹿市4・9
野口直己（S18）秋田市4・10
細部幸雄（S27）秋田市4・10
八槻勝雄（S18）秋田市4・10
堀貞春（S17）秋田市4・10
村上十郎（S19）秋田市4・10
河野光司（S40）秋田市4・11
奈良恭三郎（S7）秋田市4・12

由利正宗
株式会社斎弥酒造店
代表取締役社長
斎藤銑四郎
（S32卒）
本荘市石脇字石脇53
TEL 0184－22－0536

今野薬局
今野鍠司
（旧姓伊藤S32卒）
本荘市花畑町87－2
TEL 0184－22－4181

有限会社丸喜
代表取締役
江幡喜一郎
（S32卒）
本荘市上横町38
TEL 0184－22－0100

秋田ターミナルホテル
総務部長
石井康夫
（S32卒）
秋田市中通7丁目2番1号
☎0188－34－1911

升屋
代表取締役
那波三郎右衛門
（S12卒）
秋田市大町3－2－8
TEL 0188－24－5341

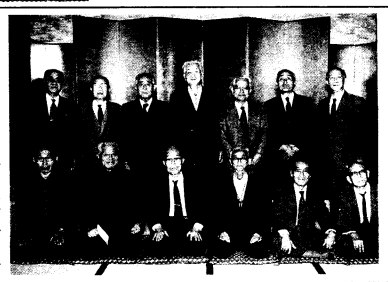
ご婚礼・ご宴会・ご宿泊
㈱アキタニューグランドホテル
阿部武次（S6卒）
伊藤博次（S12卒）
伊藤民雄（S35卒）
伊藤信雄（S43卒）
秋田市中通5-2-1
TEL0188(34)5211

つどい

昭五会の記

暑かった夏も過ぎ去り、爽やかな初秋を迎えた九月二十七日、恒例の昭五会を千秋会館で開いた。

しかし昨年よりは人数も大部少くなり、県外よりの一人を加えた地元在住十二人の計十三名と淋しかった。午後三時開会、例年の通り物故者の霊に黙禱を捧げ、写真撮影、本間氏より会務の報告、藤本から母校百二十周年記念事業基金募集の



我れ我れに対する期待額を、かなり上まわった感謝を伝えた。つづいて同窓会長塩田氏より会の現況就中、記念事業基金の集り具合やら、母校の情勢など語られた。その後出席各位の近況・所感が述べられた。東京昭五会の集りについては、宮城から参加した鈴木氏から、その様子が説明された。

そして本間氏自身ワープロを打った、欠席者からの「何か一言」よりそれぞれの現況・昔語りを懐しがり、健康やら趣味のこと、は最近のバブル経済崩壊、それに金丸五億円事件にまで発展したりした。

年令のせいか酒量こそ衰えたものの、いづれも昔乍らの元気、それも伴侶の支えあればこそと語り合った。

更にこの会合をこうして持てるのは、本間幹事の心暖かい配慮あってのことが、期せずして皆の口から洩らされた。

終りに懐かしい校歌「天上遙かに」を斉唱、また来年会いましょうと、五時三十分散会した。

出席者

（宮城）鈴木光義

（秋田）安倍興・相沢謙一・伊藤彰・伊藤武雄・金沢英治・桜田正吉・塩田雄次・堀井太郎・本間善次郎・松葉重敏・和賀茂・藤本儀一

（藤本記）

十一紫会のつどい　昭11卒第四十九期

昨年暮れから本年度に入り、物故者が相次ぐということで、ついに百三名の大台を数えることになった。敬老会（七十五歳）の該当名簿に登録される年次となった仲間達は、年一回の集いをお互の健在を確め合う意味で十月、神無月の終わり三十一日秋田市のふきみ会館で催した。偶然なことに鹿渡神社（琴丘町）潟馬神社（刈和野町）熊踊神社（六郷町）の国柄宮司、森宮司、熊谷宮司の三神官の級友が出雲の旅から…？帰郷して参加する縁起を祝って、同期生達の健勝祈願をして会を盛りあげてくれた。

来年度の百二十周年記念式典のときは、一人でも多く集って祝う会にしたいことを申し合わせて散会した。

（事務局長　伊藤　馨記）

「出席者」　丹下敬一、石田誠、佐藤淳治郎、佐藤岩雄、菅生正雄、渡辺純一郎、市川稔、目黒武士男、熊谷義一、小川宇一郎、信田昭、森義亮、国柄隼男、高堂五郎、槇尾五郎

秋中五十期会

我々は、今年卒業五十五周年の年に当る。昭和六十二年に卒業五十周年の記念行事を盛大に行ったのであるが、この時これから十年毎ではお互いの齢を考えれば、間があり過ぎるから五年毎にしようとの話し合いがあったので、今年は丁度当番年次にも当るので、総会にも出来るだけ出席して欲しいと考えて、総会にあわせて八月二十三日、午後六時より通称南通り亀の湯二階の「大名」で開催された。

今年は、春の例会も都合で延期していたので、参加者も多いだろうと期待していたのであるが、東京より三名、地元から十九名の計二十二名であった。

総会には九名が出席したが、懇親会も早々に失礼して会場に向い、久しぶりに畳の上で再会を喜びあった。

冒頭、伊藤博次郎常任理事より、昨年十二月の例会の折の会員の動向と母校創立百二十周年の募金協力に対する謝辞あり、死去の情報のあった高橋正治郎君に対して、一同心から哀悼の意を表明した。

ついで、募金委員を代表して池田康夫君より募金の状況に詳しく説明あり、母校の最終締切は来年三月末であるが、我が五十期会は今年の六月末を締切として募金、お蔭様で割当百万円に対して、その一・五倍の約百五十万円の成果があったことを報告、協力に対する深甚なりの謝意を述べられた。

その後懇親会に入り、今月初めに来秋した大阪の阿部忠雄君から頂いた灘の銘酒で、東京から出席した浦川則男君の音頭で乾杯、例によって、那波三郎右衛門、小玉健吉の両君より寄贈の美酒に、夜の更けるのも忘れて歓談痛飲、話題は尽きることなく、一応校歌を斉唱し、再会を約して解散したが、遠来の会員を中心にして約半数は二次会へと流れた。

〈出席者〉

浦川則男・大桃文夫・三浦賢太郎（以上関東地区）相澤　弘・浅利由雄・荒川秀晴・池田康夫・伊藤繁雄・伊藤博次・京野大三・草薙義照・小西庄一郎・小玉健吉・桜谷吾朗・坂本　元・澤石　謙・那波三郎右衛門・根本常夫・畠山爲敏・三浦善一郎・山崎忠秀・渡辺喜一

（桜谷記）

駅頭で交歓

昭和十三年卒恒例の同期会は十月十七日(土)午后四時半からターミナルホテルで開かれた。

開会前から既に半数近くがロビーに参集、久濶を喜び談笑していた。やがて全員集合したところで記念撮影を済ませ、会議室で開会大槻幹事の司会進行で始められ、物故同期生への黙禱後、菅原代表幹事が挨拶、大槻幹事から会務会計報告がなされた。

協議案件は㈠母校創立百二十周年記念協賛募金が現在目標額（百万円）の約九十％が集まったこと。㈡来年度の同期会は、母校創立記念式典日にあわせて九月一日に行いたい旨の意見が了承。㈢幹事の交替は石沢・畑沢両氏の辞任、柴田均一氏の新任を認め、㈣東京紫紺会状況紹介（宮崎幹事）あり、五時半頃から開宴にはいる。

室内には昔懐しい、校友会歌応援歌がテープで流され、遠来の小松誠（仙台）氏の音頭で乾杯、孫ぐらいの年の若い綺麗なホステスさん方のお酌で一気にボリュームが盛り上り、白髪禿頭が返老還童（若返り）して談笑、カラオケに興ずる者もあり、思い出は盡きなかった。頃をみて小松義一氏の発声で校歌の斉唱あり、母校の発展と参集者の健康を祝して万才三唱し閉会、再開を約して夜の巷に散っていった。

当日の出席者は、安東誠、石田秀一、江見喜代彦、伊藤繁雄、大槻家静、小松誠、小松義一、小松真悦、柴田均一、進藤一雄、菅原繁雄、鈴木哲郎、高安泰助、畑澤恵、平野庫治、宮崎金一、横江剛一　の十七名。

（菅原記）

五十周年記念五五期会

秋中五五期会（昭17卒）の平成四年度定期総会並びに卒業五十周年記念式典は、平成四年九月二十七日秋田市協働社大町ビルで、会員及び夫人を交えて三十七名が出席して開催した。

太平洋戦争開戦の翌年、学窓を巣立って半世紀の歳月を経過して、本年は卒業五十周年記念ということで、県外出席者も含めて初参加の会員十一名が出席した。

定例総会が例年通り終了後、記念式典には、秋高同窓会伊藤事務局長並びに秋田高校松岡教頭の来賓をお迎えして開かれ、最初に物故者追悼の黙禱をささげ、引続いて秋元会長あいさつ、来賓の祝辞がなされてから、同期生田村鉄男君（前日本原子力研究所勤務）の「原子力について」の記念講演が行われて、その専門的な知識と経験のもとに巧みな話題により、第三のエネルギーとしての安全性等の重要性に関して深い理解が得られて、式典が閉じられ懇親会に移った。

加賀谷誠一君（㈱フジクラ社長）の音頭で乾盃、続いて参加者それぞれの自己紹介にうつる。

今や五十年の風雪を刻んだ老人なので、初参会者のなかには、その容姿にいささかとまどいを感じていたが、盃巡るごとに若き頃の面影が次第にしのばれて、談論風発し懐旧の情止み難くも、時の訪れも早く、一同校歌、校友会歌を声高らかに斉唱の後、お互いの健康を念じながら再会を約して閉会した。

〔出席者名〕秋元辰二（同夫人）、安東貞幸、池田潤一郎、石垣良之、越後谷健一、大里俊夫、川尻茂三、加賀谷誠一、金子一雄（同夫人）、鎌田利靖、佐渡久雄、佐藤憲嗣、東海林廣司、柴田鎌太郎、駿河清廣、相馬義一、園部俊雄、谷口啓之助、田村鉄男、田村悦郎、照井力（同夫人）、照井啓義（同夫人）、滝戸鶴吉、内藤邦雄、根岸秀治、長谷川鉄蔵、平沢幸作、福田啓一、細川湖（同夫人）、若月孝道、渡辺博太郎、渡部倫寧

（相馬記）

卒業三十周年記念総会開催

我が同期会では、八月十五日、千秋会館において卒業三〇周年記念総会を開催した。

我々が母校を卒業したのは昭和三十七年三月。新校舎建設協力資金を三年間納めた功績が報われ、卒業式だけを大松沢校舎で挙式していただいた大松沢一期生であり、また、旧駅前校舎で三年間を過ごした最後の生徒でもある。解体間近なあの木造ボロ校舎は、我々の心のふるさとであり、各人それぞれ生涯忘れ得ない思い出が籠っている。

三年のときには秋田国体が開かれ、わが剣道部は堂々の準優勝。今でも鍋島喜隆君や金子健三君の鼻は高いのである。

硬式野球は西奥羽大会決勝までいきながら天敵秋商今川投手に二―一で敗れ、甲子園の土は踏まずじまいであった。

思えば、高度経済成長のはしり、「岩戸景気」と言われた大型景気のまっ只中の三年間であった。

さて総会には全国各地から八十余人の出席があった。大嶋駿一代表の挨拶、事務局の経過報告のあと、年会費制の導入などを盛り込んだ同期会規約を採択。四十人の新役員も選任した。

記念写真撮影のあとの懇親会には室田校長先生、松岡教頭先生、塩田同窓会長、同窓会伊藤・神馬両先生、それに担任の桜谷吾朗先生、清水重孝先生にもご出席をいただいた。乾杯の音頭は横浜から駆けつけた高橋征夫君、青春時代の思い出話は尽きることがなく、和気あいあい、盛会のうちに終了した。中には六次会まで回ったという豪のものもいたとか。

また、これを機会に、卒業三〇周年記念誌「紅顔日々に」も発行した。

このように五十歳を目前にして我々37年卒同期会は、ようやく本格的に始動しはじめたのである。

どうぞこれからの活躍にご期待下さい。（関徹弥記）

（秋田社会保険事務所勤務）

菊地司法書士事務所
司法書士 菊地圭介
司法書士 菊地喜久雄（S52卒）
TEL 0188-23-9381
TEL 0188-62-4330
FAX 0188-23-3209

司法書士
梅崎昌弘（S52卒）
秋田市山王六丁目17番19号
☎ 0188-66-4646

ABS秋田放送
田宮　忠（S32卒）
秋田市山王7丁目9の42
TEL 0188-24-5151㈹

歯科藤丸医院
院長 藤丸隆樹（S32卒）
本荘市美倉町16-1
TEL 0184-22-5023

ジコードウ
代表取締役 藤井厚生（S32卒）
事務所/秋田市千秋矢留町7-11
TEL 0188-36-0700

有限会社 ナルミ
代表取締役 鳴海洋一（S32卒）
秋田市千秋明徳町2-75
TEL 0188-32-2085

室田 弘校長 教育功労者表彰に輝く

去る十月十六日、東京の国立劇場で行われた文部省の学制百二十年記念式典において母校の室田弘校長が、長年にわたる教育界への多大の功績を認められ、教育功労者表彰を受けられた。この栄誉は、先生は勿論われわれにとっても大変うれしい限りである。

先生は昭和六十三年母校の校長に就任以来五年間、県高校長協会の会長として全国的視野に立って本県高校教育の充実発展に寄与し、更には全国高校長協会理事の役職や校長協会東北ブロック代表としてもその重責を果たして来られた功績が大きく評価されたものと思われる。

また、昭和六十三年より四年間、県高体連会長の要職も兼任され、全県高校総体の開催地三ブロック輪番制の定着化、高体連事務局の充実などに積極的に寄与し、本県スポーツの強化・興隆に多大の功績をあげて来られている。

更には、前後十八年間にわたる教育行政面での功績も評価されたことは言うまでもない。

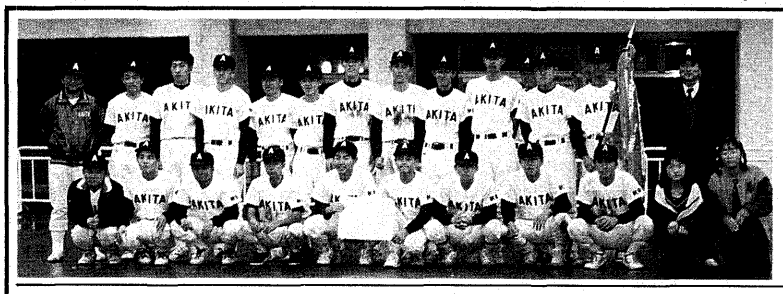
先生は今年度を最後に後進に道を譲られるが、この五年間、円満で誠実な人柄と卓抜した指導力で、母校の伝統に清新な気風を注ぎ込んでくださったことに衷心より敬意を表したい。先生のこれまでのご労苦に感謝申し上げ、今回の表彰を同窓の皆様と共に喜びたいと思う。

運動部の活躍と文化活動

◆軟式野球部

東北大会優勝

一回戦　秋田1－0平工業
準決勝　秋田1－0山形商
決勝　秋田2－0東奥義塾
（延長十二回）



十月二十三、二十四日の両日、宮城県営野球場で行われた第四回東北地区高等学校軟式野球大会に初出場した軟式野球部は、主力の二年生が修学旅行の直後で練習不足という悪条件ながら、堅い守りで相手に得点を許さず、決勝までの三試合をすべて完封勝ちし、初優勝を成し遂げた。

今年は夏の大会が不本意な成績で終り、また来年が創立百二十周年でもあり、新人チームになってから例年以上に練習に気合いが入っていたのが実を結んだ。

来年に向けての収穫は、エース佐藤琢麻が県大会の四試合も含めて全試合を一人で投げ抜き、自信をつけたことである。冬期間に基礎体力をつけ、来年の本大会でもぜひ勝ちたい。

（部長　斎藤常雄）

◆卓球部

斎藤 亮人 中国遠征に参加

去る十一月九日より十七日まで、本校卓球部二年の斎藤亮人君が、日中友好少年少女卓球チームの一員として、中国蘭州市へ遠征しました。これは秋田市と蘭州市の友好都市締結十周年を記念して行われたもので、秋田市内の中学生男女各一名、高校生男女各一名が参加しました。本校の斎藤君は、九月に行われた全日本選手権県予選の男子ジュニアの部で優勝したために、今回の遠征に選抜されたものです。

日程には蘭州や北京の観光も含まれており、卓球を通しての交流は三日間でありましたが、常に世界の卓球界をリードしてきた中国の卓球に触れ、学ぶべきことが多かったようです。

先日行われた全県新人大会でもシングルスで優勝しており、本校卓球部のエースとして、今後益々期待できるものと思います。

今回の遠征にあたりまして御理解・御援助をいただいた本校職員と本校卓球部OB会の方々に深く感謝申し上げます。（庫山　徹）

人事異動

十月一日付で、母校職員に次のような異動がありました。

松岡正樹教頭
能代工業高校
校長に栄転

高橋克二教頭
松岡教頭の後任に
河先進教諭
本校教頭に昇任

文化活動

◆放送委員会

我が放送委員会事務局、通称放送部は最近のコンクールで非常に良い成績を収めてきた。私が知っている最近四年間をみても、ABSの大会では三度最優秀校に選ばれ、NHKの大会でも常に金賞や銀賞に選ばれている。東北大会や全国大会でも最優秀賞や優秀賞など多くの賞を得、全国でもトップレベルの学校になったと思う。

ところで、「放送のコンクールっていったい何やってるんだ？」とよく聞かれる。簡単に言うと、コンクールではアナウナス、朗読、ドラマCMの各部門に出場している。ドラマでは校内の話題から最近では環境問題やエイズについてなど、色々とりあげる。CMでは「きりたんぽ」や「奥の細道」など秋田の名物を宣伝する。これらの作品の台本制作、出演、録音などすべてを部員が手掛け、主な活動となる。

このような活動の上で受け継がれる技術や伝統も多い。入部直後は賞をとれなくても二度目、三度目のコンクールでは入選や最優秀賞と、練習によって実力をのばしていくことが多い。伝統に加え、個人のもつ個性を失わせない環境が最も大きな財産ともなっている。

このさき後輩たちが伝統を受け継ぎ、さらにそれぞれの個性を失わずに新しい風を吹きこむことによって、より一層秋高放送委員会事務局を発展させていってもらいたい。

外務大臣賞を受賞して　伊藤めぐみ（一年）

―国際協力・国際理解のための高校生による主張コンクール―

現在、世界の五人に一人は非識字者であり、そのほとんどは発展途上国に集中している。ユネスコは世界寺小屋運動など様々な活動をしているが、まだまだ民間の理解と協力が不十分である。私は、この事実を少しでも多くの人に伝えようと思い、「国際協力・国際理解のための高校生による主張コンクール」に応募しました。

横手工業高校で行われた秋田県大会で最優秀賞を頂き、十一月に東京YMCAで行われた全国大会に出場しました。

全国大会では、十八人の弁士が自分の経験や研究活動に基づいた、それぞれの国際協力または国際理解に関する考えを発表し、熱弁をふるいました。

中には、実際にバングラデッシで橋を架けたり井戸を掘ったりする作業に加わってきた人の体験談などがあり、様々な人の考えを学ぶことができました。

そんな素晴しい発表の中から特賞の一つである外務大臣賞を頂くことができて、大変に光栄でもあり、また、ご指導いただいた稲村綾子先生には感謝の気持ちでいっぱいです。

今後も何らかの形で活動を続けて、日本が経済ばかりではなく福祉・国際協力の面でも大国と呼ばれるように尽力してゆきたいと思います。

会務報告

▽だより38号で報告後の会務は次の通りであります。

8・1　大阪支部総会
11　当番年次打合せ会
21　同窓会だより第38号発行
23　通常総会
27　百二十周年校史委員会
9・5　茨城支部総会
19　25年次同期会
22　百二十周年校史委員会
27　17年次同期会
10・1　若年次懇談会
23　学校林について懇談
25　追分三叉路会支部総会
26　募金幹事会
28　名簿委員会百二十周年
29　百二十周年施設委員会
30　百二十周年校史委員会
11・1　西仙北支部総会
7　男鹿支部総会
13　第2回募金委員会
16　校史資料館建築入札の現場説明
17　湯沢支部総会
19　広報委員会
20　行事委員会百二十周年
26　校史委員会百二十周年
27　総務委員会百二十周年
28　岩手支部総会
12・2　営林局支部総会
4　校史資料館建築入札名簿委員会

事務局だより

◇去る十一月二十六日に仙台国税局長より、百二十周年募金の免税措置の認可がきました。いよいよ募金活動も本格化し、一安心といったところです。

◇施設委員会・総務委員会を経て、校史資料館の設計入札も終わり、本契約を結ぶところまでこぎつけました。

◇総事業費一億円のうち、十一月末現在の寄付金は約三千八百万円です。募金目標額に向けて、各年次募金委員の同期会員へのいっそうのご協力と督励かたよろしくお願いいたします。

株式会社ブックスささき
代表取締役
佐々木春太
（S42卒）
本　店：イトーヨーカドー秋田店5F
駅ビル店：秋田ステーションデパート2F

OSADA 長田建設株式会社
代表取締役副社長
長田憲一
（S42卒）
本社　秋田県本荘市石脇字田頭208の2
電　話　本荘(0184)22－0722(代)
FAX　本荘(0184)23－3346

不動産仲介専門
㈲榎竹商事
榎　昇平
（S42卒）
秋田市中通3-4-5
TEL 0188(35)2928

㈱秋田コクヨ
代表取締役
岸部恵一（S30卒）
取締役
石塚金栄治（S42卒）
秋田市卸町4-7-7
TEL 0188(62)6345

山王土地株式会社
代表取締役社長
辻　國四郎
（S22卒）
秋田市山王5-14-2 2F
TEL 0188－62－4020

石田歯科医院
石田達也
（S22卒）
石田達郎
（S50卒）
秋田市南通亀の町5の7
TEL (0188)32－5482

中学高校 6年間一貫指導
菅原進学塾
菅原純二
（S42卒）
〒010 秋田市広面字近藤堰越30-3
TEL (0188)34－6986

SINCE 1985 あるいぶろだくと
川口公作
（S42卒）
〒141 品川区西五反田5-5-2
ハマイ・ハイライズ501号
TEL 03－3491－5067

大渕歯科医院
大渕義孝
（S42卒）
秋田市中通6丁目1-24
TEL 0188－35－3711

TAKUMI ARCHITECT'S ASSOCIATES
株式会社 匠設計工房
井村　博（S42卒）
人見高司（S42卒）
芦野智之（S45卒）
〒010 秋田市保戸野通町5-34
TEL 63-1258 FAX 63-1972

弁護士
渡辺　隆
（S22卒）
秋田市山王四丁目6－20 合同ビル
TEL 0188－64－9111

菅原眼科医院
院長 菅原脩二
（S22卒）
能代市柳町4－3
TEL 0185－52－5101